

様式

地域関連課題等研究支援費に係る研究成果報告（ホームページ用）

	(所 属)	(職 名)	(氏 名)
研究 代表者	京都府立医科大学医学 部看護学科	教 授	星野 明子
研究組織 の体制	京都府立医科大学医学 部看護学科	准教授	大西早百合
		助教	村上佳栄子
研究の 名称	都市部における高齢者の暮らしを支える「地域力」の概念構成の 検討		
研究のキ ーワード	高齢者、 エンパワーメント、 地域力、 ネットワーク		
研究の 概要	<p>社会資源や経済などの地域格差が偏在する長高齢化社会において、健康で安全安心な暮らしを支えるために、住民組織やグループを基盤とした住民による地域の健康問題解決力の強化が求められている。</p> <p>本研究では、住民による地域のエンパワーメント「地域力」の主要な構成要因を明らかにするために、京都市内の2学区の地域活動を実践している方々を対象にグループインタビューを実施、分析検討した。分析検討後、都市部高齢化地域の地域力再生に向けた住民活動への専門職者による支援方法について、何らかの示唆が得られると考える。</p>		
研究の 背景	<p>超高齢社会において、社会資源の偏在や経済の地域格差、そして医療格差がみられる。孤立しがちな高齢者にとって、健康な暮らしを維持することは困難になってきている。研究者は、2005年8月より京都市内C商店街に“すこやかサロン”を開設し、地域高齢者の支援システムの構築を目的にアクションプランを実施。商店振興組合、地域女性会等と連携した活動は、個人の孤独感の減少に影響を与え、暮らしを支える地域のリソースの一つと考える。</p>		

研究手法	<p>1) 研究デザイン：質的記述的研究</p> <p>2) 研究対象者：A学区およびB学区の地域活動をしている住民2グループ16名</p> <p>3) データ収集と分析：AB学区を対象に、2回フォーカスグループインタビューを実施。インタビュー内容を逐語録に起こし、質的記述的方法によって分析した。</p> <p>4) 倫理的配慮：書面を提示し口頭による説明を実施。研究目的及び方法を理解し、同意書に記名をした者を対象とした。</p>
研究の進捗状況と成果	<p>A学区（7名）、B学区（9名）の2カ所において、フォーカスグループインタビューを実施した。対象者は町内会連合会長、学区社会福祉協議会長、婦人会会長、体育振興会長、民生委員など、現在地域で活動している地域住民の方々である。インタビューでは、自己紹介を兼ねた自身の地域活動のきっかけや、活動を継続していて良かったと思うことを全員に発言してもらった。その後、問題点や今後の検討課題等についての自由な討論をした。インタビューデータは逐語録に起こし、分析検討した。</p> <p>逐語データは、【自身の活動継続の理由】【自身の継続における問題点】【活動における今後の課題】の視点で分析検討した。まず、【自身の活動継続の理由】として「感謝されることによる活動源」「知人の増加」「新たな体験（行政関係者と知り合う、テレビ取材を受ける）」「知見の拡大（法律を知る、多様な活動を知る、高齢者を理解する）」「リーダーへの信頼」があった。さらに【自身の継続における問題点】では、「活動の全容を把握した行動の困難さ」「誘い出しの困難さ」があった。【活動における今後の課題】では、「参加者の増加と方法」「後継者の育成方法」が抽出された。対象者は、活動を自己成長として意味づけることによって、困難さを抱えながら継続していたと考えられる。今後さらに、結果の詳細な分析を行い、専門職者の支援方法について考察したい。</p>
地域への研究成果の還元状況	<p>今後、インタビューデータの詳細な分析検討のうえ、対象グループに報告書を提出する。また、結果から得られた示唆をもとに、対象グループと協働し、支援を進めていく予定である。</p>
今後の期待	<p>住民による地域のエンパワーメント「地域力」の主要な構成要因を検討し、専門家支援方法を考察し、地域実践に生かしたいと考える。</p>
研究発表	<p>今後、さらにデータの詳細な分析を加えて、国内外の関連学会へ発表していく予定である。</p>